

3-2 教育改革 I T フォーラム

本会議は、教育改革の課題を解決するための方策を研究討議することを目的として継続開催している。本会議の運営・実施は、教育改革 I T フォーラム運営委員会（委員長：山崎和海、立正大学）を継続設置し対応した。

（1）開催要項の決定

今年度は、基礎学力・学習意欲の低下を改善する取り組みとして、教育支援、学習支援、FDの実効を高める取り組み、産学連携による教育支援、SDの取り組みを中心に問題意識を共有する中で解決の糸口を模索することとした。

初日は、早稲田大学による学部の縦割りの弊害を除去する副専攻に発展する可能性のあるテーマカレッジなど「教育のオープン化」の事例紹介することにした。2日目前半は、テーマ別自由討議を行い、初年次教育と教育支援、授業での携帯電話の利用、ファカルティ・ディベロップメントやスタッフディベロップメント（FD）の実現、後半は文科系、理工系教育におけるFDとIT活用、産学連携、学習支援と支援環境整備をテーマとした。

開催日程は、6月15日から16日の2日間とし、明治大学駿河台校舎を会場とした。開催要項は以下に掲載する。

平成19年度教育改革 I T フォーラム開催要項

開催日 平成19年6月15日（金）～16日（土）

会 場 明治大学（駿河台校舎リバティタワー）

【開催趣旨】

教育改革の課題を解決するための方策を模索するため、ファカルティ・ディベロップメント、スタッフ・ディベロップメントへの取り組み、教育支援・学習支援、学習意欲の向上を促進するIT活用の工夫など問題提起を踏まえ、研究討議する他、教育活動に役立つ事例紹介を実施する。

6月15日（金）

- | | |
|--------------|------------------------|
| I. 開催挨拶 | 戸高 敏之 会長（私立大学情報教育協会） |
| II. 会場校挨拶 | 吉田 悦志 氏（明治大学二部教務部長） |
| III. 当協会事業紹介 | 井端 正臣 事務局長（私立大学情報教育協会） |
| IV. 事例紹介 | |

「学ぶ力を高めるための教育改革～教育のオープン化の取り組み～」

講師：土方 正夫氏（早稲田大学オープン教育センター所長）

学生の学習意欲が低下している中で、大学の授業は閉塞状態にある。この問題を打開するためには、学生に学ぶ楽しさや知的好奇心を持たせ、学びの動機付けを行うことが重要であり、大学としての教育力の発揮が求められている。学生の学ぶ力を高める実践型の教養教育（テーマカレッジ）、選択制によるテーマスタディ（全学共通副専攻）、チュートリアル語学教育、教員・学生・企業によるテーマ単位のオープンゼミなど、早稲田大学の学部の枠を超えた教育の取り組みや教育改革としての教育のオープン化についてそのねらいを紹介する。

<情報交流会>

6月16日(土)

I. テーマ別自由討議

分科会 A-1 初年次教育と教育支援

高等教育では、学生への教育の質保証をどのように保つべきかが問われており、授業を受けるために必要最小限の学習法や、高校課程で学んでいない共通科目の学習を初年次教育として早急に支援することが課題となっている。本分科会では、1年次学生を対象とした教育プログラム、および学習活動支援についてセンター組織による取り組みを紹介し、その課題と施策について討議する。

キーワード：1年次教育、学習スキル支援、共通基礎科目支援、個別学習支援

課題提起：菊池 重雄氏（玉川大学コア・FYE教育センター長、経営学部教授）

高木 功氏（創価大学教育・学習支援センター運営員、経済学部教授）

分科会 A-2 学習意欲や参加意識を高めるための取り組み

大人数教室における講義は、一方向の講義のためどうしても学生の授業参加意識が低くなる。このような状況で学生の学習意欲や参加意識を高めるためには、様々な工夫が必要となる。本分科会では、学生のほぼ100%が所有している携帯電話を用いた出席管理や質問、小テストおよび授業評価アンケートなどができるシステムを開発し、実際の授業で利用されている明治大学と大手前短期大学の事例を紹介する。大規模と小規模の大学から利用での利点および問題点を提起し、各大学の参考にしていただくと同時に意見交換を行う。

キーワード：携帯電話、大人数講義、ユビキタス、理解度把握、出席管理

課題提起：川島 高峰氏（明治大学情報コミュニケーション学部助教授）

佐々木英洋氏（大手前短期大学講師）

分科会 A-3 ファカルティ・ディベロップメントへの組織的取り組み

FDの一環として学生による授業評価は全国で約97%実施されているが、形骸化、形式化に陥っているとの指摘もある。こうした中、大学院設置基準で

F Dが義務化され、学部にも適用されようとしている。本分科会では、F Dの組織化と教育力向上について先駆的に取り組んでいる大学の事例をもとに、F Dの実質化を模索したい。

キーワード：ファカルティ・ディベロップメント、教育評価・改善、F Dの組織化、研究授業、授業研究会

課題提起：酒井 陽一氏（大同工業大学授業開発センター長）

分科会A-4 スタッフ・ディベロップメントへの組織的取り組み

教育改革や大学改革を実効性のあるものとするには、教員側の努力だけではなく、職員の意識改革、能力開発が重要になる。本分科会では、こうした取り組みを積極的に推進している大学の事例を参考に、職員の関わり方や求められる資質、さらには教員との連携などについて討議する。

キーワード：F D支援、学生支援、教職連携による授業設計・開発・運営、教育・授業支援システム開発

課題提起：杉町 宏氏（立命館大学情報理工学部事務長）

<昼 食>

II. 事例紹介

分科会B-1 文科系教育におけるF DとI T活用

文科系教育におけるF DおよびI T活用授業の一つの事例として、教育改善の考え方、効果的な教育モデルなどを中心にして、その実践事例を紹介する。教育現場での課題（教育プログラムのねらいと受講者の意図とのミスマッチ）を明らかにし、その上で、教育改善のための授業設計・授業開発・運営の改善方策などについて検討する。さらに、Webを活用した入門授業についてもその概要を紹介する。本事例は文科系教育での教育改善のプロセスとして参考になると考える。

キーワード：授業設計、授業モデル、教員と学生のミスマッチ解消、eラーニング

講師：岸田 賢次氏（名古屋学院大学商学部教授）

分科会B-2 専門教育における産学連携

産業界と大学との教育の産学連携の事例が出始めている。講義とプロジェクト演習を効果的に組み合わせた特色あるカリキュラムに、これまでの大学教育では事例の少ないゲーム制作という軸を加えている。大学の持つ専門的な制作技術と、産業での事例の双方による共同プロジェクトを行うことで、学生は大学内において、インターンシップやOJT以上の貴重な実体験を得ることができる。本事例はゲーム制作の人材育成を目指したものであるが、企画・設計・開発・運用（評価）という開発プロセスを俯瞰的に扱っていることから、ゲーム制作以外の他分野における物作りやシステムに共通する教育実践

例としても参考になると考える。

キーワード：専門教育、産学連携、動機付け教育、即戦力の養成、プロジェクト演習

講 師：金子 満氏（東京工科大学メディア学部教授）
三上 浩司氏（東京工科大学メディア学部講師）
山路 和紀氏（東京工科大学兼任講師、（株）プレミアムエージェンシー代表取締役社長）

分科会B-3 重層的な学習支援の取り組みと支援環境の整備

学生の自立性を高める工夫として、日本初の学習支援センターでは、学生の進路、職業観などを大学として一人ひとりの学生に聴取し、学生の希望に沿った学習活動が実現できるようにポートフォリオを作成し、到達能力をベンチマークテストで自己確認するなど、自律的な学習を促進するための取り組みを行っている。具体的には、学習成果の到達度をポイント化してキャンパス・マイレージ制度で学習奨励金を提供したり、学習支援の内容をデータベース化を通じて、新しいカリキュラムの創出を行っている。これらの取り組みについて具体的に紹介する。

キーワード：自立的学習支援、学習ベンチマーク、eポートフォリオ、学習成果のポイント付け

講 師：山下 泰生氏（関西国際大学副学長）

分科会B-4 理工系教育におけるFDとIT活用

理工系教育は、学生の興味やモチベーションの低下、忍耐力の低下により、授業の実施に支障をもたらしている。これらの問題を解決するため、教員と学生双方による協調型教育が求められてきている。実社会と連携したプロジェクト学習、チーム学習において学生自身に不足している学習を気づかせ、学習意欲の持続化する。現場の映像を見せるなどして、モチベーションの持続化を図る。このような目標を達成するための一つの教育モデルとして、本協会の機械工学教育IT活用研究委員会では、コアカリキュラムを設計し、教育改善のための授業設計・開発・運営の方向性について検討してきた。ここでは、ITを活用した授業モデルの事例紹介を行う。本事例は理工系教育での教育改善プロセスとして参考になると考えられる。

キーワード：IT教材、eラーニングシステム、協調型教育、モチベーション教育

講 師：曾我部 潔氏（上智大学理工学部長）

<自由見学>明治大学博物館

（２）開催結果

参加者は、昨年度より約40名減の281名であった。なお、開催結果の詳細

細は、資料編【資料11】を参照されたい。

（３）次年度への準備

運営委員会では平成20年度の開催方針を検討した結果、ここ数年の参加者数の減少や「大学教育・情報戦略大会」とのテーマ重複という現状を踏まえ、本会議は大会と統合し、名称も「教育改革IT戦略大会」に変更し実施することにした。

日程および会場は、9月2日から4日の3日間、アルカディア市ヶ谷（私学会館）に決定した。なお、運営組織はこれまでのフォーラムと大会の両運営委員会を統一し、「教育改革IT戦略大会運営委員会」（委員長：向殿政男、明治大学）として改組することにした。

プログラムは、初日と2日目は従来の大会で実施していた内容を企画することにし、これまでのフォーラムでのテーマ別自由討議を3日目に企画することにした。テーマ別自由討議は参加者からのアンケートを踏まえて、FDの具体的な取り組みや、学生の能力を高めるための授業法、初年次教育と専門教育の連携、教育支援のためのスタッフ・ディベロップメント（SD）について取り上げることとした。

